別紙3　　令和7年度　　学校関係者評価書　　作成日:9月29日　国分寺市立第四小学校　　校長名　大島　晃

教育目標: ○ゆたかな心で　じょうぶな子　　◎自らよく考えて　やりぬく子(重点目標)　　○みんなで　協力しあえる子

目指す学校像: 1心が響き合う学校　2学ぶ喜びがあふれる学校　3力がみなぎる学校　4互いに結ばれている学校

目指す児童・生徒像: 1よく考え伸びようとする子　2心優しく支え合おうとする子　3すすんで心身をきたえようとする子

目指す教師像: 1自らを高めるとともに、互いに高め合う教職員　2教育論をもち、児童の育ちを語れる教職員　3確かな人権意識をもつ教職員　4経営参画意識をもつ教職員　5教育公務員としての自覚をもつ教職員　6学校・地域を愛せる教職員

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標（中間）	努力指標（最終）	成果指標（中間）	成果指標（最終）	今後の課題	学校関係者評価記入欄
豊かな人間性の育成	人権教育の充実 道徳教育の充実 生活指導の充実 体験的活動、表現や鑑賞活動の充実	全教育活動を通して、いじめ防止教育の充実に努め、命を大切にし、互いの人権を尊重し合う態度を育てる。	「いじめ防止基本方針」に則り、年間を通じていじめ防止教育を徹底し、いじめの兆候を見逃さず、一人ひとりの児童理解に基づいた指導の充実を図る。	4		4		発達支持的生徒指導の充実を図りながら、児童理解の深化に努める。こころのポスト等児童がSOSを出せる場の確保、周知に一層努める。	・いじめ防止について学校は方策を立て、実践していると思う。多様性を認め、個を尊重し合うことを体験的に学ぶ機会を増やしていってほしい。 ・学校の取組を保護者へ分かりやすく提示し、家庭も同じ認識がもてるよう、周知してほしい。
		基本的な生活習慣の確立を図り、自分自身で自他の安全に配慮して行動しようとする態度を育てる。	「返事・あいさつ・後始末」を合言葉に、生活指導を徹底する。「四小生活スタンダード」を改善、指導の充実を図る。	4		3		「すすんでできる」姿を目指し、習慣化を促す支援を行う。学級内だけでなく、学年・学級全体での目標共有や取組の統一を一層進めるとともに、児童会活動を中心に自発的な取組を促す必要がある。	・基本的な生活習慣を身に付ける意味を理解させる必要がある。善い行いを認め、価値付けてほしい。 ・子どもたちが安心してあいさつができる地域の土壌を整えられるようCSとして取り組んでいきたい。 ・学校に限ったことでなく、地域・保護者とも連携し、目指す姿に向けて子どもたちを支える仕組を模索していきたい。
確かな学力の定着	基礎的・基本的事項の徹底 授業の充実を図るための授業改善 読書活動・プログラミング教育の推進	児童一人ひとりが「わかる、できる、つかえる」ことを実感できる授業を実践し、児童の自己肯定感を育てる。	授業のねらいと振り返りを全授業で行い、児童一人ひとりが「わかる、できる、つかえる」ことを実感できる授業を実践し、児童の自己肯定感を育てる。	3		3		一人ひとりの学習の進捗状況と理解度を把握し、個に応じた支援を通じ、児童が達成感を得られるようにしていく。より一層に個別最適な学びをすすめていく。	・授業について、先生方がよく工夫していると思う。 ・自己肯定感を育てることは日常の繰り返しだと思う。子どもたちにとって魅力的な授業をとおし、一人ひとりの得意なことに目を向け、声をかけていってほしい。
		自ら学び、自ら考える活動の日常化を図る。	学習活動においてICTを積極的・効果的に活用し、情報活用の基礎および実践力、ルールや科学的な理解を図る。また、朝読書や読書旬間を設け、読書活動の習慣化を図る。	3		3		自由進度学習を通し自ら学び、考えを決めることができるよう校内研究を充実させ、授業改善に努める。読書量に顕著な個人差が見られるため、朝学習や読書旬間を効果的に設定し、習慣化を図っていく。	・ICTの活用と併用して、体験を通じての学びや探究活動の機会を地域と連携して増やしていけるとなお良い。 ・読書習慣は家庭環境によるところもあると思う。学校内での環境整備や取組に加え、読書の重要性についてを児童だけでなく保護者にも周知してほしい。
たくましい心身の育成	健康教育の積極的な推進 体育活動の日常的実践を推進 安全教育の推進	食育を計画的に実施し、食への関心を高める。	給食指導や会食会を通して、食や健康に興味をもち、よりよい生活を送ろうとする態度を育てる。	3		3		都に比べて「痩せ」の傾向にあり、残菜も多いことから、児童の実態に応じた声掛けや工夫が必要。食育活動の継続的な充実を図る。	・様々な取組、情報発信がなされていると感じている。 ・食事は生活の基本であるからこそ、今後も取組を継続してほしい。 ・国分寺は農家も多いので、食育の観点で地域と関わる活動や、直接生産者と触れ合う機械をCSとしても考えていきたい。
		体育指導の充実	「遊ぶ、かかわる、高める」を合言葉に、自ら体力を高める児童の育成に取り組む。自他の安全に目を向け、自ら危機を回避し、行動できる資質や能力を育む。	3		4		体力調査の結果は、全国平均をやや下回る傾向にある。校庭や広場での鬼ごっこなどを通じて、体力向上と危険回避の力を育成していく。体育以外の場面での運動習慣の定着を図る。	・授業で様々取り組んでいると感じている。 ・体育が苦手な児童への配慮をお願いしたい。 ・児童数に対して校庭の狭さや、熱中症対策もあり、体を動かす機会を確保するのに学校として苦労があるのではないかと思う。屋内の活用など工夫しながら課題解決に取り組んでほしい。
学校・家庭・地域の連携強化	特色ある教育活動の充実	「国分寺学」として地域に親しみ、学び、貢献する授業を推進する。	「国分寺学」として、史跡等の地域環境や地域人材を活用した、地域に親しみ、地域に学び、地域に貢献する授業を推進する。	3		3		地域人材や団体との関わりは充実しているが、継続的な関係づくりや新たな連携先の開拓が課題。児童の主体性を高める探究活動の充実を目指す。	・自分たちの住む地域を知ることはとても大切だと思う。地域との協働や地域貢献活動を今後も継続していってほしい。 ・地域の人材活用がもう少し気軽に行えるような環境、組織づくりが進むと良いと思う。先生方からCSに遠慮せずに声をかけてほしい。 ・四中や五小と地域人材の共有をしてもよいと思う。 ・内容充実を目指し、学校と地域の相互的な情報交換の場としてCSだよりの発行・活用をしていきたい。
	家庭・地域との連携及び協働を推進	コミュニティ・スクールとして、家庭・地域と連携して児童を育てていく。	第四中学校区コミュニティ・スクールを通して、児童の教育活動及び地域活動の充実を図る。	3		3		授業参観や教員交流は行われているが、継続的・体系的な連携が難しい場面もある。コミュニティ・スクール内の家庭、地域、広報の3組織と教員が連携し、児童の成長を支えていく。	・子どもの教育環境について、学校任せにするのではなく家庭・地域が協力して行う必要があることを伝えていきたい。 ・持続可能な連携を目指すうえで、「業務的なサポート」だけでなく、純粋な交流を目指した企画も必要かもしれない。協働していくためにも話し合う機会を気軽にもてると良いと思う。 ・学校も家庭・地域も楽しく取り組むことができるのが、CSの理想だと思う。